

防火の運動

平署の大宣傳

平署にては來月十五日縣下一齊に行はれる第四回防火運動に際しては消防組員の總動員を行つてポスター宣傳ビラ及び講演等に依る防火宣傳模範火災等各種の防火に依つて防火思想の普及徹底を期する事となつた

滯納公賣

小川江組合で

小川江組合では七年度組合費滯納者三十三名百五十三圓五十七錢に對し過般強制處分に附したが來る卅一日午前十時より團體事務所にて公賣を行ふと

會社續出

今年は十會社

平區裁判所登記所に於ける去る一月より去月末迄の會社設立登記は合資四、合名郡大野村青年團では來る廿

赤の女訓導

老母の心盡しに

ただ轉向の一路を辿る

平町四丁目米穀商渡部つね(五)さんの五女渡部たい(三)さんは本年五月まで平第三小學校の訓導として教鞭を執り
優しい先生として見

平商庭球上京 過般の縣下中等學校明治神宮豫選庭球大會に見事優勝し單複共に出場権を握つた平商の安島、木田兩選手は其後毎日猛練習中であつたが全國中等學校複試合が來る二十七日より三日間東京板橋區江古田コートに於てま

菅原教諭出張 平商業學校菅原教諭は本日より三日間東京商科大学に於いて開かれる第一回全國商業學校英語科教員大會に出席の爲め昨日平發午後二時十五分にて出張した

ケラ虫の發生に

郡農會獎勵の驅除法

石城郡農會では最近麥の根を喰ひ荒す害虫ケラ虫の發生甚しいので驅除法として餌誘殺法を獎勵して居るが是れは馬鈴薯にアヒサンを混合せるダンゴを作つて害虫の通路に置き誘殺するものであると

大野青年役員

石城郡大野村青年團では來る廿

ゴマ化し

木炭注意

粗悪品交り

木炭が需要期に入つたと共に漸次高値を示してゐるため最近平地方にこれを奇貨

話題を

提供したが其の後實母つねさんの子と思ふ熱情に動かされて今や全く常人に立歸りうら若き女性の身に友人知己との交際も断ち只管家業を助け母に報ゆる

孝道に

いそしんで居る右に就いて母親は語る『たいは一時は世間様をお騒がせしましたが今では全く生れ變りまして朝か

武道選手

平署で決定

既報平署では來る廿三日福島市武徳殿に開催される縣下警察官武道大會の出場選手及び武徳會選手を今回左の如く決定し一層猛練習を行つて居る

△警察官選手(劍道)三段 高杉五郎 初級佐藤勝實 二級桑原正雄 四級高子 與三郎(柔道)初級福田憲次郎 初級古山博道

常設館たより

回平 館 日活現代劇夏川 靜江、市川春代、井染四郎 中田弘二主演「未來花」前篇 日活時代劇大河内傳次郎、伏見直江、伊達里子主演「三萬兩五十三次」前中篇

軍人後援

生徒達聴講

平町各中等學校及び各小學校では既報の如く明日午後六時半より平第三小學校講堂に開催される陸軍中將小泉又一氏の軍人後援思想普及講演會を聴講せしめると

第二區教育會

石城第三區小學校教育事務協議會は來る二十一日午後一時より平第二小學校に於て開かれるが會長選舉等を終つて午後三時より公園ときわ亭に於て過般退職された會

内科、小兒科、花柳病科

藤沼 醫院

入院 需應

平町紺屋町 電話五〇七番

りん病 永らく悩む人の福音 下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥 岩別府林氏

全國知名新聞 こんなヨイクスリを未だ知らな 雜誌 推獎 い方がありませうか 右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし 慢性淋病、こしけ、過渴の病みは不思議に止り連服 するも絶對胃腸傷害なき各業であります 尚ほ此の藥は責任速効藥で二日以内服して効なき時は 殘藥引換に全部異議なく返金します。 論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。 慢性、悪性の人は七日以上服差して下さい。 美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に 付前金申込者には送料無料、新品送薬す。 代金引換廿三錢手数料金納の事。

藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓 慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約 平町古鍛冶町一〇

手販賣 阿康藥舖 縣社ノ下(電話四四番)

市原 醫院

平町 田町 電話一四四番

吉田 眼科病院

平町新川町十九 電話一六四番

木村 病院

平町新川町十九 電話一六四番

産人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 立番彌一
入院隨意 病室完備
電話一六四番

深夜幼女を斬る

便所に起きた處を

山林で暴行の揚ぐ

湯本町に怪事件が突發

石城郡湯本町長の口魚行商 鶴壽(三)長女尋常一年生青 柳ヤス(八)假名は今晚一時 頃小用の爲め起出離れ便所 に行つた處を何者にか浚は れ廿數間を去る山林中に連 れ込まれて暴行を加へられ た揚句海軍ナイフ用の兇器 にて咽喉及び腹部等に斬付 けられ瀕死の状態にて悶倒 して居たのをヤスの捜索に 出た家人が発見したが犯人 は未だ判明せず多分變態性 慾者の處爲ではないかと見 られて居る

X會褒賞

授與式舉行

警中X會では来る二十四日 午後一時より講堂に於いて X會展覽會の入賞者林武義 君外十九名に對する褒賞授 與式を舉行終つて茶話會を 催すと

内郷聯合運動

第二小學校では来る二十二 日午前七時半より同校内礦 業公民學校同窓會と聯合し て秋季運動會を催すと

平の自動車脚筒が

面目一新して歸る

東京で機械各部を修理

性能の試験を行ふ

並に水勢試験を行ふ由

成績展の

入賞兒童

二、第三各小學校より本縣 男子師範學校に創立滿六十 週年記念縣下小學校兒童成 績品展覽會に出品した兒童 中の入賞者は左の如くであ ると

△圖書(第一校)新妻幸男

前人氣早くも沸騰

國際的大試合展開

廿一日の拳闘柔道肉彈戰

既報來る廿一日聚樂館に開 催される拳闘柔道の國際對 抗試合は早くも平町は云ふ に及ばず附近各町村に迄人 氣を沸騰せしめて居るが當 日の好試合と目されるヒリ ツピンのキッドダヤオ及び 藤田左傳兩雄の試合は東都 に於いても見られぬ一大肉 彈戰を演ずるに至るべく觀 衆の熱狂を煽るであらうと

女中沸底

紹介所弱る

平職業紹介所は現在十名の 女中さん入用の口がある求 職者一名もなく鳴物入りで 希望者を求めて居る

海とは方角違ひ

情婦を携へて出奔

石城郡江名町南町居住漁夫 大和田豊(三)は去る十七日 朝福井丸に乗組んで漁業に 行くと云ひ残り其妻は情婦 の石田トキ(三)と小名濱町 で落合つて何處へか行術を 眩したと妻ハルが泣くく 平署に捜査方を願出た

明日の天気

今夜も明日も北西の風曇天氣良なる

刑務所の

今日此の頃

平刑務所に於ける目下の收容者數は十二名で内譯は恐喝二、公私文書偽造行使詐欺一、窃盜詐欺恐喝一、勞役二、受刑者五名であるが昨年の同期に比し大差ないと

小川衛生協議

村衛生實行組合では来る廿一日午後一時より村役場に於いて役員會を開き消毒薬の購入に就いて打合せを行ふと

第二區運動會

石城郡第二區(湯本、入山、磐崎、尋高、同第一、第二、泉渡邊、小名濱、江名、鹿島、玉川)各小學校兒童の競技會は明日午前九時より入山グラウンドに於いて舉行する

平職業紹介所報告

求人を求める方

- △トラック助手 尋卒 月
- △五圓(江名町某)
- △農夫 三十才 委細面談 (高久村某)
- △外交員 四十迄 商卒
- △賈上の一割五分(平町某)
- △女中 三十才 尋卒 給

料面談(江名町某)

回職を求める方

- △土工夫 二十七才 高卒
- △給料面談(内郷村某)
- △雜夫 二十八才 尋卒
- △給料面談(平町某)
- △外交員 二十九才 商卒
- △土工夫 三十三才 尋卒
- △給料面談(朝鮮某)

久金屋商店

磐城セメント會社特約店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は(久)の生命なり

鈴木醫院

耳鼻咽喉科専門

醫學士 鈴木 正男

平町田町(電話五八番)

藤田女學校前

自炊のお需めに應ず 入院の便あり



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十八回 血に飢ゆる村正

實子に報ふ悪業

明る朝次郎吉は目を覺ます

鐵「次郎や顔を洗つたら一寸来い」

次「目明しに一寸来いは餘り宜い心持はしねえ」

鐵「ナニ」

次「今参ります」

と嗽ひ淨手が濟んで離れの四疊半へ参りました

鐵「次郎昨夜は御苦勞だつたな態々小松原まで行つて拳骨を土産で歸つて来たな

……」

次「何うして知れましたな

……」

鐵「夫だから手前にあの位に云つて置いたぢやアねえか」

次「誠に相済みません」

鐵「昨夜汝が寝てから表を叩くから誰かと思つて明て見ると小松原の名主の彦兵衛さん親は泣きよりとは能く云つたものだ夕方次郎吉に酷い事を云つたがあれも當人の爲だ今次郎吉に就て意見をして人間にして呉れるものは鐵藏お前より外にないから頼みに来たと眞夜中六十からの人が頼みに来て見れば此の鐵藏も捨て置かれねえどうだ次郎吉」

……」

抱する時分だはまだ遊び足りねえか弟の有信は正直と親切で小松原では神のやうに云ふぢやアねえか貴様は有益の總領に生れて餘り人が違ひ過ぎる辛抱さえずりやアどうにでもしてやるが



鐵「ウム俺の面へ泥を塗るな世話はする氣だから家へも置くがソレ見ろ又鐵藏が恥をかいたといわれねえやうにして呉れ夫に就いて入夫に這入る氣はねえか」
次「貰ひ人があるならどんな所へでも這入りませう」
鐵「夫は家柄を争ふ田舎の事だ小松原の有益の總領の次郎吉だ貴様さへ行く氣なら直にも相談は極る事だ先右衛門の家だ」
次「ヘー仙右衛門はどうか致しませうか」
鐵「仙太郎といふ十二にな

何だ上直しでなく直正に辛抱をする氣はねえか」
次「實に恐れ入りました身上が惡さで弟や伯父にまで犬猫のやうに云はれました是からは酒も博ちも止めて終ひどうか一花咲かせたく思ひますから親分お世話を願ひます」

……」
知なら早速話をして見やう
次「何分お願ひ申します」
と本心に歸つた様子ゆえ鐵藏は先方へ話をすると、子供のあつたのを承知で来て下さるなら話が早く纏りました鐵藏が里になり佐野の船橋の絹商人の跡へ入夫いたし名前を次郎兵衛と替へました、さて取る年ゆえモウ考へも出来たと見えて一生懸命稼いで見ると面白くなりなりました、其中子供が出来て十月十日を經ちますと首尾よく産の紐を解きましたのが後年の次郎左衛門でございまして幼名を次郎と號けましたモウ、次郎兵衛の辛抱を見届たものでございまして小松原で町外者となつて居たのを取消し殊に有益が死ぬ時に是れは次郎吉へやつて呉れといふ金を百兩といふもの彦兵衛が預かつて居たのを資本の足しにと呉れる様になり今では有信と兄弟の名乗りをなしお互い出入をする事になりなりました所が絹物ばかりではございませぬ一寸山氣のある次郎兵衛ゆえ危ない所へ手を出したのが間の宜い時には皆くトントン拍子に何萬兩と云ふ身代になりなりました、茲に擧げましたる次三郎が十五歳の時に疝瘡に罹りました疝瘡といふものは幼ない中ばかりかと思ひましたが然う譯でもないと思ひます腹異ひの兄の仙太郎は別家をいたし是は百姓を致して居ります玉子をむいた様な奇麗な

……」
次三郎が難痘に罹りましたから大層兩親は心配をして居りましたが中にも次郎兵衛は食事を忘れる位に次三郎の傍へ付き切りでございませぬ、胤が違つて居るせいか仙太郎の事はトントと構へませぬそれを常々女房おあさは恨んで居ります、仙太郎も子なら次三郎も子何人も人の胤だと云つてあんなにむごくするものぢやないと思つて居りましたが或日の事
次「おあさや醫者の云ふには餘程大事にしないと難かしいといふから今夜から寢ずに次三郎の傍に附いてゐるが宜い」
あさ「ハイ畏まりましたがそんなに次三郎の事はかり云はないで些たア仙太郎の事も思つてお貰ひ申したい……」
と一寸恨みを云つた

木村外科科
院醫科外村木
際橋目丁五町平
〇九三話電

金銀高價買入
根本時計店
正木織物店ノ生命也
絹織物ノ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御注文
に應ず
御注文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳貳番(公園下)
白生地 正木織物店
賃織販賣
耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
大和田醫院
平南町(電話一七〇番)

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではあまりせん
平町南町六五
川井内科診療所
電話一八一番
醫學士 川井重之
女醫 川井安子